

令和7年度 事業報告

社 会 福 祉 法 人 天 光 会
特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 恵 光 園
短 期 入 所 生 活 介 護 事 業 所 恵 光 園
デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー 恵 光 園
居 宅 介 護 支 援 事 業 所 恵 光 園
ケ ア ハ ウ ス 恵 光 園

令和7年度 社会福祉法人天光会 事業報告

【法人理念】

～Precious one～

人との出会い・つながりと・そのふれあう環境、共に過ごせる時間を大切にします。

【基本方針】

『お客様主体』

お客様の生活を支えさせていただくためには、お客様が何を望んでいるのかを知らなければいけません。

お客様の立場に立って考えること。

私たちが大切にしなければいけないもの、私たちが守るべきものは何か…

『個別性』『個々の尊厳』そして『その人らしく』生きていただくために、

私たちは、一人一人の人、その人生を見つめていきます。

歳を重ねること人生を諦めるのではなく、

大人の想いだけで子どもの主体性を損なうことのないように…

いつまでも自分らしく、楽しく。

その想いから天光会は、

『Precious one』を基本理念にかかげ、

お客様目線のサービスを提供させていただきます。

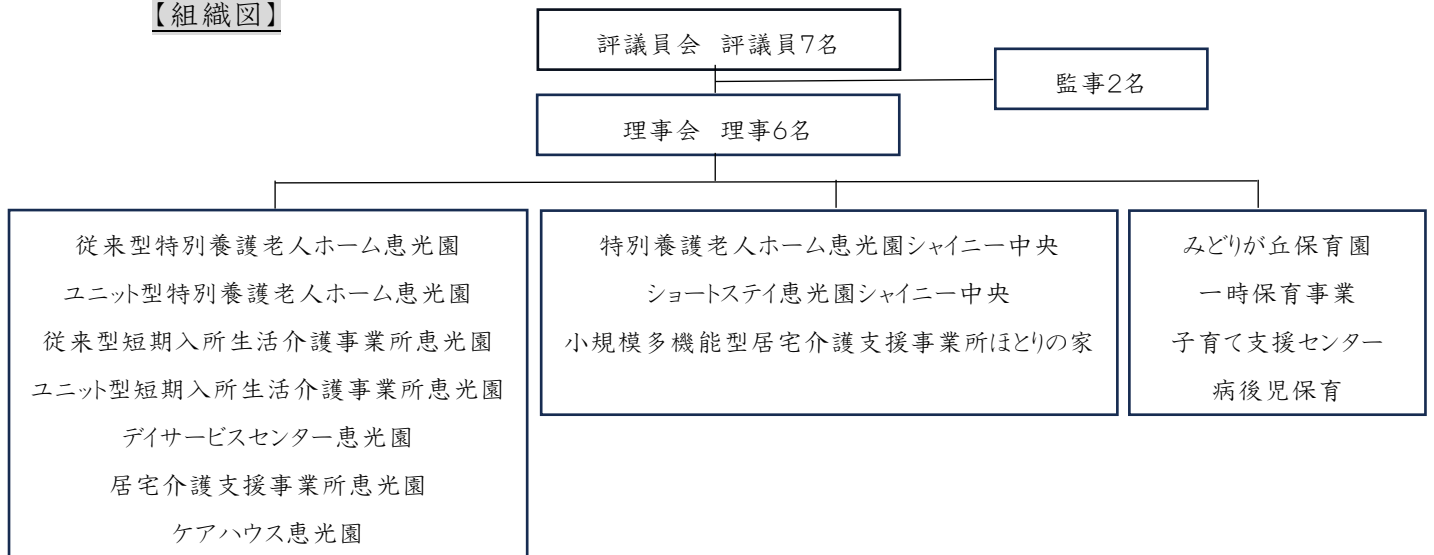
【法人目標】

『今こそ転換期 未来ビジョンを創造する』

～すべてはお客様主体であるために～

エンゲージメントを向上させ、法人・顧客・職員の結びつきを深める。

【組織図】



1. 活動内容

【理事会開催(9回開催)】

・令和7年6月2日 主な議題: 令和6年度決算報告・事業報告・監事監査報告

次期役員候補者案 令和6年度下半期業務執行報告

・令和7年6月17日 主な議案: 理事長及び業務執行理事の選定

- ・令和7年7月25日 主な議案:監事候補者の推薦案(書面決議)
 - ・令和7年9月22日 主な議案:評議員選任・解任委員の選任 評議員候補者推薦案
 - ・令和7年10月7日 主な議案:評議員選任結果報告(書面報告)
 - ・令和7年10月24日 主な議案:ケアハウス恵光園 R7 年度千葉市老人福祉施設修繕事業
入札参加業者選定(書面報告)
 - ・令和7年11月6日 主な議案:ケアハウス恵光園 R7 年度千葉市老人福祉施設修繕事業
施工業者決定(書面報告)
 - ・令和7年11月26日 主な議案:令和7年度補正予算案
R7 年度千葉県介護テクノロジー一定着支援補助金交付決定
R7 年度上半期業務執行報告
 - ・令和8年3月25日 主な議案:令和7年度二次補正予算
令和8年度収支予算案・事業計画案
理事選任候補者案
- 【定時評議員会開催(2 回開催)】
- ・令和7年6月17日 主な議案:令和6年度決算報告・事業報告・監事監査報告
理事及び監事の選任 令和6年度下半期業務執行報告
 - ・令和7年9月3日 主な議案:監事選任(書面決議)
- 【監事監査の実施(令和7年5月30日)】
- 【法人会議の実施(月1回)】

2. 地域における公益的な取組

買物支援サービス事業(エリア:太宮台1・2丁目)

令和7年度実施報告

実施月	実施日数	利用総数	協力総数	運転手総数
4 月	4 日	32 名		5 名
5 月	5 日	40 名		5 名
6 月	4 日	32 名		4 名
7 月	5 日	40 名		5 名
8 月	3 日	24 名	2 名	3 名
9 月	4 日	32 名	4 名	4 名
10 月	5 日	39 名	5 名	5 名
11 月	4 日	30 名	4 名	7 名
12 月	4 日	32 名	4 名	4 名
1 月	4 日	32 名	4 名	4 名
2 月	4 日	32 名	4 名	5 名
3 月	4 日	32 名	4 名	5 名
合計	50 日	397 名	31 名	56 名

特別養護老人ホーム恵光園・ユニット型特別養護老人ホーム恵光園

【施設目標】

○プロアクティブ介護の実践

・職員が先を見越して積極的・主体的に行動できるプロアクティブ行動を推進し、スキルアップやモチベーションが向上することで、お客様主体の実現に繋げていく。

・ICTを有効的に活用し、根拠のある支援を行うと同時に委員会や研修等を通じて職種の専門性の向上と組織の生産性を高める。

○インクルージョンの推進

・自身の仕事・自身の職種に対して誇りを持ち、お互いを向上させる相互関係の構築。

・多様な人材が相互に受け入れられ、個性や特徴を活かしあって調和する環境の形成。

○接遇意識の向上。

・洞察力を高め、事実の理解を超え、背景、意味、本質を見抜く能力を養う。

・人生の先輩であるお客様に敬意と思いやりを持って支援を行う。

【部署目標】

①各専門職と連携した職場作り

②地域社会との協同と社会貢献

③経営の安定

【特別養護老人ホーム恵光園 執行報告】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
令和 7 年度	99.9%	96.6%	97.8%	97.9%	98.0%	97.7%
実稼働	97.9%	96.6%	95.5%	94.3%	95.8%	96.7%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
令和 7 年度	97.2%	99.1%	97.4%	96.7%	93.6%	99.7%
実稼働	96.1%	97.2%	97.4%	96.7%	93.6%	99.7%

	目標	実績
稼働率(入院含む)	98%	97.6%(実稼働 95.9%)
平均介護度		男性 3.9 女性 4.2
新規入居者数		27 名
退所者数		28 名
年間入院件数		21 名
看取り対応		18 名

【ユニット型特別養護老人ホーム恵光園 執行報告】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
令和 7 年度	96.7%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%
実稼働	96.1%	98.6%	96.7%	98.7%	100.0%	98.6%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	100.0%	99.6%	99.1%	100.0%	100.0%	100.0%
実稼働	95.2%	90.4%	94.4%	100.0%	99.4%	98.8%

	目標	実績
稼働率(入院含む)	98%	99.5%(実稼働 97.2%)
平均介護度		男性 4.0 女性 4.4
新規入居者数		6 名
退所者数		5 名
年間入院件数		14 名
看取り対応		3名

【園内研修実施報告】

4 月	緊急時対応	10 月	事故防止
5 月	感染症・業務継続計画	11 月	身体拘束廃止
6 月	事故防止・新卒課題発表	12 月	感染症・業務継続計画
7 月	虐待・接遇	1 月	職業倫理・ホーム目標
8 月	認知症ケア	3 月	排泄について
9 月	栄養・褥瘡	3 月	看取りについて

【行事・活動報告】

4 月	花見	10 月	ハロウィン
5 月	母の日	11 月	創立記念祭・恵光園祭
6 月	父の日・新卒課題発表	12 月	クリスマスパーティー
7 月	七夕・塗り絵大会	1 月	獅子舞・寿司パーティー
8 月	夏祭り(各ユニット)	2 月	節分の豆まき
9 月	敬老会・慰問	3 月	ひな祭り

【総評】

職員が先を見越して主体的・積極的に取り組む中で、ICT を活用しお客様の睡眠の質や起床タイミングをデータで確認しケアに繋げる事ができた。更に呼吸数や心拍のデータで体調変化の先取りを行う事ができ、病気の早期発見・治療にも繋がった。研修や委員会でも ICT の活用を積極的に行い、データ等の根拠に基づきお客様の課題をカンファレンスや委員会にて抽出し話し合う事ができた。外国人職員の入職に伴い、職員の教育意識が高まり、園のルールを再認識し職員同士で共有する事が増え、お互いの見習うべきことにフォーカスする事で相互関係の構築に繋がった。接遇意識は常日頃から委員会や研修でも取り組んでおり、以前に比べお客様であるという認識ができ、不適切な言動には互に注意する場面も増えてきた。

カンファレンスが増えた事により、各専門職との話し合いや意見交換が増え、色々な角度からの支援や考えが出来るようになり、お客様のご希望を叶えるために多職種連携し実現出来るようになっている。社会貢献や協同関しては、ボランティア活動の再開で、徐々に外部のお客様との交流や千葉市相談員の来園により、外からの意見やアドバイスを取り入れ閉鎖的な施設にならないよう取り組んでいる。病院や居宅介護支援事業所より、在宅での介護が難しく緊急で受け入れ希望であるお客様の受け皿として緊急性や切迫性のあるお客様を積極的に受け入れた。依然として医療依存度の高いお客様や生活保護受給者の方のご相談が多く、各部署の労力は増えたが職員拒否することなく受け入れる事が出来ている。

運営に関しては、入院や死亡による退所者数がかかり多く、月に集中し入居支援が遅れてしまったが、短期相談員と連携を図り空所利用や介護度が 3 以下の区分変更必要なお客様を受け入れ、介護度が 3 以上になったタイミングで長期入居に移行し出来る限り空きを増やさないよう努力した。どこの施設も

待機者の確保が難しくなっているなか、恵光園は長期・短期相談員で営業に回り、主に居宅介護支援事業所のケアマネや病院のソーシャルワーカーに認知していただき、ご相談があった際には迅速に対応することで申込者を増やす事に繋がった。引き続き他部署連携し、恵光園全体で協力し運営をしていくよう努力していく。

そよ風ユニット

【ユニット目標】

- ①お客様の希望に添ったケアの実現、提供を行う。
- ②職員・多職種との連携を高め、良いケアが出来る環境を構築する。
- ③接遇に対する意識の向上

【総評】

- ①業務に追われてしまったのが現状だが、少しずつお客様の要望に対して、居室担当者を中心にカンファレンス議題を見出す事を行ってきた。居室担当者制に関して理解が出来ていない職員がいる為、居室担当者制の理解とお客様をよく観察し、居室担当者制を機能させる。日頃の業務に関しても見直しが必要である。
- ②多職種連携をさらに密にする必要があり、カンファレンスのあり方に課題が残った。特に職員間での情報の共有の方法が課題となっており、業務ノートを活用して共有を行っているが、全職員への共有ができていない為、申し送りの時間を業務に組み込むことも検討している。
- ③接遇面では、まだ注意をしなくてはいけないところがあり、職員同士で注意しづらい事もある為、リーダーを中心としてお互いに注意出来る環境を作るのが課題である。来年度は、2か月に1回の業務カンファレンスを行い職員の接遇に対しての意識の向上を行う。

大空ユニット

【ユニット目標】

- ①介護のプロとしての意識を持ち、お客様が求めているケアをプロアクティブな視点で提供する。
- ②業務改善を常に考え、お客様にとっては日々の生活環境、職員にとっては働きやすい職場環境の構築、業務改善は常に行うという意識を職員が持つ。
- ③接遇意識の向上

【総評】

- ①居室担当制については、職員によってお客様との関わりに偏りがあり、お話ができない方へのアプローチが弱い。課題が見えてからのカンファレンスの開催となっていた為、プロアクティブというものがどういったものなのかを各職員が理解する必要がある。委員会や園内研修などで得た知識を、根拠のあるケアに繋げていしつつ、眠リスクなどのデータをもとにケアに生かすことができていた。
- ②業務改善については、月1回業務についてのカンファレンスを行った。自然と業務改善を考える癖がついた職員も見られた。各勤番の業務を明確にして新人職員や異動されてきた職員は仕事内容を把握しやすくなった一方で、臨時で対応しなければいけない仕事に関しては、職員の対応力の差があり今後の課題である。
- ③接遇については、年度の初めごろは、お客様という意識が低い職員がいたが、カンファなどで指摘合い、注意し合ったところ、年度の後半になるにつれ、徐々に言葉遣いや、お客様に対する態度が改善していった。また対応が難しいお客様へ接遇意識が乱れる事があり、今後はどのような場面でも冷静

に心穏やかに業務に取り組む必要がある。

こすもすユニット

【ユニット目標】

- ①お客様のニーズに応える
- ②多様性の重視
- ③接遇意識の向上

【総評】

新人職員が2名入ったことで既存職員が教育にあたり、根拠をもって教育することでお客様への対応も根拠のある支援を行うことができていた。根拠のある支援を行う事で、お客様に統一した支援ができていた部分があった為、更にケア統一できるようにしていきたい。外国から新人職員が入りどうしたら考えが伝わるだろうかと、職員の伝え方を考える良い機会になった。眠りスキャンから眠りコネクトに変わり、ICTの活用ができていなかったのも、活用できるよう来年度は取り組みたい。新人職員が入ったことで、接遇の重要性を伝え、伝えることで既存職員が接遇を顧みる良い機会になった。新人職員の手本にならなければいけないという部分もあり、接遇の意識は全体的に高く保つ事が出来た。今後も接遇意識を心掛けていきたい。

さくらユニット

【ユニット目標】

- ①お客様が継続して利用して頂ける介護サービスを提供する。
- ②スペシャリスト集団を目指す。
- ③ユニット内で社会性を構築する。

【総評】

居室担当者発信の提案が増えた。しかし、記録や情報が不足しているなど、根拠が乏しい状態での提案もあった。また、担当者の想いが先行し、共通認識が乏しくなることもあった。介護過程の意図を理解し、意識を高める必要がある。ユニット会議の中で情報共有を行う場を用意したことで、その場を利用し委員会や係、担当者として学んだ内容の共有を行い、追加の資料を用意するなど、職員それぞれが意識的に取り組むことが出来ていた。しかし業務に追われることが多くなったことで、情報共有の頻度が徐々に少なくなり、共有した内容の定着に課題が残った。日常的な場面では、お客様にプランターの水やり、カーテンの開閉、おしぼり置き、洗い物など、役割を持っていただく事ができ、お客様同士で役割分担をする光景が見られた。また非日常の場面では、参加型のレクリエーションの企画を多く開催することができ、社会的な繋がりを意識できる場面を作ることができた。一方で、咄嗟に出してしまう声掛けの内容などの接遇面や、コミュニケーション面では課題が残った。チームとして、解決していかなくてはならない課題であり、来年度取り組む必要がある。

なのはなユニット

【ユニット目標】

- ①お客様のニーズに応えた介護を行う。
- ②インクルージョンを意識した業務改善。
- ③接遇意識の向上(接遇意識の向上)

【総評】

お客様とコミュニケーションを取り、ご自身で訴える事出来る方に対しての対応は行えるようになった。訴える事が出来ないお客様に対しての対応が統一して対応出来ておらず、来年度はご自身で訴える事の出来ないお客様に対してカンファレンス等で対応の統一を図っていく必要がある。ICT に関しては眠りスキャンから眠り CONNECT に変更となり、得意不得意がある為、不明な部分の吸出しを行い不得意分野の解消に努める。委員会に関して、学んだ内容をユニット職員へ周知が出来ていなかった。園内研修への参加頻度が少なくなってしまった為、来年度参加出来るよう対応していく。

職員同士のコミュニケーションは以前より改善し、信頼関係の構築が進んでいる。②の目標の意識統一を図る事が出来なかった為、来年度は意識統一を図るために月に一回目標の共有を図る。

職員同士お互いの対応を見ながら切磋琢磨し接遇意識は向上出来た。お客様の行動一つ一つに対して疑問を持つことが出来ていなかった。お客様に寄り添う姿勢や職員自身が考えて提案する事の重要性を今後も養っていく。

短期入所生活介護事業所恵光園・ユニット型短期入所生活介護事業所恵光園

【部署目標】

- ① 利用者及び家族の満足度向上に努める。
- ② 多職種との報告、連絡、相談を徹底し、心身の状況、本人、家族の要望等を確認し現在有する機能に応じた適切なサービスを提供する。
- ③ 感染症の予防に努める
- ④ 介護保険法及び関係各法令の遵守
- ⑤ 年間稼働率 96%を目標に稼働率の向上と運営の安定を図る

【短期入所生活介護事業所恵光園 執行報告】

- 稼働率 100.2%(前年度:99.6%) 延べ人利用 7315 人(前年度:7271 人利用)
- 男女比 (男性 30%:女性 70%)
- 平均介護度 3.69(男性 3.9 : 女性 3.7)(前年度:3.6)
- 新規利用者数 26 名(LS 19 名:SS 7 名)
- (恵光園居宅:7 件 他居宅:7 件 あんしん:0 件 病院:9 件 老健:2 件 家族:0 件 その他:1 件)
- 退所利用者数 25 名
- (恵光園長期入所:5 名 看取り介護:5 名 入院:7 名 自宅復帰:3 名 他施設入所:1 名 死亡:2 名 その他:2 名)
- 特養空所利用数 153 日/年間

【ユニット型短期入所生活介護事業所恵光園 執行報告】

- 稼働率 101.4%(前年度:104.3%) 延べ 3701 人利用(前年度:3808 人利用)
- 男女比 男性:20% 女性:80%
- 平均介護度 3.63(男性:2.6 女性:3.9)(前年度:3.4)
- 新規利用者数 12 名(LS:6 名 SS:6 名)
- (恵光園居宅:5 件 他居宅:4 件 あんしん:0 件 病院:0 件 老健:0 件 その他:3 件)
- 退所利用者数 9 名

(恵光園長期入所:3件 看取り介護:0件 入院:1件 自宅復帰:2件 他施設入所:1件 死亡:1件 その他:1件)

○特養空所利用数 76日/年間

【総評】

新規利用者の受け入れに関して現場職員・医務の理解もあり年間稼働率目標値を超え達成する事ができた。新規利用者数は従来型は前年度比+3件、ユニット型は前年度比-2件となったが、多職種連携し日々の体調管理を行い、利用者様一人ひとりが安定した体調を維持できるよう支援した結果、退所者も従来型は前年度比+5件、ユニット型は前年度比-3件となった。そのため全体としては利用者様の平均在籍期間の向上につながり、事業運営の安定化に繋がった。また平均介護度は従来型は3.7、ユニット型は3.63へと上がり事業活動収入の執行率も従来型は108%、ユニット型は110%となった。

入所支援については法人内連携として長期相談員と連携を継続し、長期稼働率と合算しての稼働目標を常に意識した運営を行った。年間202日の空所利用を行った。状況に応じた柔軟な調整を行うことで、入所までの期間をできる限り短縮するよう努めた。退所から入所までの期間が短い分、事前の情報収集を丁寧に行い、速やかに共有することで、受け入れ時の混乱を防ぎ、必要な支援に運用することができた。他事業所居宅からの受け入れが前年度-3件となった為、営業活動の範囲を広げ、新たな事業所や関係者との接点を増やしていくことが課題となる。

面会や外出制限の大幅な緩和があったものの、ご家族のご協力と、職員の感染症対策への理解と実践が進み、今年度は感染症の発生なく運営を継続できた。今後も委員会への参加や手指消毒など基本的な予防策を継続し、感染対策の知識共有をさらに深めていく。

年間行事に関しては季節や利用者様の要望に沿った行事を実行する事ができた。今後も利用者様主体の行事を企画、実行することで、生活に変化と楽しみが加わり、より豊かな時間を過ごして頂けるようにしていきたい。

海ユニット

【ユニット目標】

- ①お客様の希望を職員が理解・共感し、お客様個人の本質を見極めた介護サービスを実施する。
- ②協調性のある業務体制の構築。
- ③職員の良き勤務姿勢を自身の業務姿勢に反映させ、より良いサービスをご提供する。

【総評】

①お客様の入れ替わりが多くあり、変動の多い年度であった。新規お客様の対応をするにあたって「把握する」という目線が自然にあったが、リスクを考慮できていない場面もみられた。訴えや希望に対し、来年度は更に訴えを汲み取るスキルを向上させていきたい。一方で、職員が意見を出し合い、退屈そうにしている方に対して活動的なレクをすすめるといった良い試みもあった。

②職員の高齢化と体調不良があり、勤務内容を個別に見直す取り組みを行った。各職員から意見と提案が出て良い試みであったが、かたよった意見もきかれ、協同し勤務が出来る仕組みを構築する必要がある。常に学ぶ姿勢が芽生える環境を作っていきたい。外国人職員に対してはとても友好的に指導している部署であり、言語的なフォローや難しさはあるが、良い面をピックアップして育てていける前向きな姿勢も多く見られた。

③職員観察の結果、悪い面は特に目につき、注意という名の揚げ足取りになってしまう場面が時折あっ

た。改善へ向けた取り組みの部分が明確でなく、反省点として浮き彫りとなった。同僚同士が良い方向へ向かっていけるよう、改善への取り組み方法を明確にしていき、問題となる前に対処していきたい。

ひまわりユニット

【ユニット目標】

- ① 特養の玄関口である事を自覚する。
- ② 支援の根拠を考えながら行動する。
- ③ お客様同士の繋がりを構築させる。

【総評】

①居室担当を明確にし、各々が責任を持って居室内の環境整備に力を入れ、室内環境についてどうすれば使いやすく、生活しやすくなるか等、職員間で相談し合い、変更出来ていた。季節やイベントによってフロアの装飾を行事委員だけでなく他の職員も一緒になって考え、お客様と一緒に行う等コミュニケーションを取りながら行えた。

②今年度は新入職員がいなかったが、協力ユニットに外国人入職者がいたため、指導する際には根拠も含めた説明をする事が出来ていた。委員会や研修で得た知識を職員間で話し合う場面もあった。分からない事をそのままにせず、職員間で話し合う様子も見られ、コミュニケーションを取りながらスキルアップ出来た。ただ、こまかな内容や日常の様子を記録に残せていない部分もあった為、記録を残す時間を設けつつ、状況が把握できる記録をつけられるよう学び、来年度に繋げていきたい。

③毎月ユニットでのレクリエーションだけでなく、別館全体で行う企画等積極的に取り組んでいた。毎月お客様の様子を撮影し、写真つきのお便りを定期的に送る事も出来、ご家族様の安心に繋がった。ただ年間スケジュール等予定の見える化が明確でなかったため、スケジュールを立てるだけでなく、見える所に貼り出す等ユニット内で共有できるよう、来年度は取り組んでいきたい。

医務

【部署目標】

- ①プロアクティブ看護の継続
- ②看護の視点からそれぞれの強みを生かしお客様に還元する仕組みづくりを行う
- ③接遇意識の向上

【総評】

「プロアクティブ看護の継続」について、褥瘡予防への取り組みや働きかけが思うように行うことができなかった。入所時より重度の褥瘡形成のある方の入所等、入所前から医務が関わることによって状態を改善できた可能性があったため、今後の課題としたい。また、褥瘡だけでなくストマ・インスリン等医療依存度の高いお客様の入所も増えていくこと。入所まもなく入院や死亡退所となるお客様が増加していること等を踏まえると、各自知識のブラッシュアップ、往診医と連携強化についても取り組んでいく必要がある。体調の変化著しい中、穏やかに園で過ごして頂くため、多職種との連携、自部署内で手技の統一を図るため話し合いや勉強の場を強化する。

「看護の視点からそれぞれの強みを生かしお客様に還元する仕組みづくりを行う」について、個々のモチベーション向上を図るため目標に挙げたが目標の達成にはならなかった。新しい職員が定着し、個々のモチベーションを維持するため何が必要か。これまで医務の対応に関するマニュアルの見直しがなく、

医務内で統一した土台のようなものがなかった。今後は医務のマニュアルを整備し、統一した看護をお客様や多職種に提供できる仕組みづくりを行い、働きやすい環境整備を作っていく。

「接客意識の向上」について、お客様からの苦情はなかった。処置にあたる際も温かい声掛けを忘れず行うことが出来た。また、受診に関わる看護師は、ご家族にも丁寧に接することが出来ていた。

感染症発生に対して、インフルエンザが2回発生し、数名の方が死亡につながった。感染拡大防止策に関しては、効果的かつ無駄のない方法が必要であるため、常に知識のアップデートを行い、必要なもの、そうでないものを生活の場である恵光園に則した方法で行っていく必要がある。感染症対策を改めて見直していく。

栄養

【部署目標】

①入居者様の栄養管理

- ・入居者様、個々の栄養状態、嚥下状態を把握し、それぞれの専門性を発揮し、改善すべき課題を見つけ、多職種協働で栄養管理を行う。(栄養状態の維持・改善を行う)
- ・食物繊維を取り入れた食事の提供や乳酸菌飲料を使用した腸内環境を整える働きかけを行い、排便コントロールや免疫力向上させることにより入居者様の健康維持に繋げていく。

②食事サービスの充実

- ・入居者様から食べたいものを募るリクエストメニュー、〇〇の日に由来した季節メニューの実施。
- ・個々のニーズに応じた食事の提供を行い、栄養食事サービスに対する入居者様の満足度の向上を目指す。
- ・イベントレク(食レク)の必要性や楽しさを広げ、職員が自発的に企画を立てられるよう支援する。

③食事環境の充実

- ・旬の食材を使用することで、食事を通じて季節を味わって頂けるよう献立作成に努める
- ・委員と協力し、季節メニューを通じて、食事環境の雰囲気作り

④栄養褥瘡委員会の活動が円滑に進むよう支援を行う

- ・介護員が必要最低限知っているべき栄養知識、介護現場に生かせる栄養知識の普及。スキルアップが図れるように支援。

【総評】

① 入居者様の栄養管理の実施

入居者様、個々の栄養状態や嚥下機能を把握し、多職種で連携しながら栄養管理に取り組んだ。また、食物繊維を取り入れた食事の提供や乳酸菌飲料の活用を通して、腸内環境の改善にも努めた。

職種間の連携が十分に取れず、対応が遅れてしまうことや、乳酸菌飲料の毎日の提供が習慣化されず、提供できていないことがあった。

これを踏まえて、日常的な情報共有をこまめに行い、定期的なカンファレンスを実施することで、入居者様の变化に早く気づける体制を整えていく。また、乳酸菌飲料の提供方法や記録の仕組みを見直し、職員同士の声かけを徹底するなど、継続しやすい環境を整えることで、より確実な栄養管理に繋がるよう取り組んでいきたい。

② 食事サービスの充実

入居者様の満足度向上を目的に、リクエストメニューの実施や季節行事に合わせた特別メニューの

提供、さらに食に関するイベントの企画支援を行った。

リクエストメニューでは、目的の周知が不十分で希望が集まりにくかったこと、また個々の嗜好や必要な情報を十分に把握できず、希望を反映しきれなかった。しかし、食に関するイベントについては、職員が積極的に企画を立て、自発的に取り組むことができた。

今後は、リクエストの意義を丁寧に伝え、個々のニーズ把握をより強化することで、満足度の高い食事サービスの提供を目指していきたい。

③食事環境の充実

旬の食材を取り入れた献立作成や、委員と協力した季節メニューの装飾に取り組み、入居者様に季節を感じていただける食事環境づくりを進めてきた。

これからは、旬の食材をより多く取り入れ、装飾に参加しやすい工夫を取り入れながら、入居者様により楽しんでいただける食事づくりを実現していきたい。

④栄養褥瘡委員会の活動が円滑に進むよう支援を行う

介護員が栄養に関する知識を身につけ、現場で活かせるよう支援することを目標に取り組んできた。

しかし、委員会の構成上、十分に関わることが難しく、結果として知識の普及よりも、まずは意見を交わしやすい雰囲気づくりが中心になった。

今後は、栄養に関する知識共有の機会を広げられるよう改善に取り組んでいきたい。

デイサービスセンター恵光園

【部署目標】

①年間平均稼働率65%を目標とし、感染対策・災害対策をしっかり行い、安定した収入を確保することがお客様及び職員の QOL 向上に繋がることを意識する。

②お客様、ご家族のご意向に基づき、お客様の個性を大切に、在宅生活が継続出来るようサービスを提供します。

③職員は、常に報告・連絡・相談・確認により職種間の連携を図り、専門的知識向上を目指し、接遇への理解を深め、効率的に事業を実践します。

④和顔愛語(なごやかな表情と親愛の情がこもった言葉づかい、親しみやすく暖かい態度)の姿勢により、安心感・信頼感を持って頂けるサービスを提供します。

【執行報告】

○定員 1日25名 ○営業日数 311日

○年間稼働率 69.3% ○年間延べ利用者数 5404人 ○平均介護度 2.2

	年間行事	月間・週間行事
4月	お花見(施設敷地内)	セレクトランチ ティーパーティー
5月	母の日(カーネーション)・菖蒲湯(入浴) 鯉のぼり(施設敷地内)	
6月	父の日(プレゼント)	
7月	七夕まつり(短冊に願いを記入)	
8月	夏祭り(盆踊り・ゲーム)	
9月	敬老会(表彰・プレゼント)	
10月	運動会(小規模で開催)	
11月	映画鑑賞(プロジェクター投影)	
12月	クリスマス会(ハンドベル・プレゼント)、餅つき	

1月	正月あそび	
2月	節分(鬼退治)	
3月	ひなまつり(ひな人形飾り付け、展示)	

【総評】

前年度に比べ年間稼働率は、増加している。4月から夏まで新規の契約者が増えたことが要因と考える。上半期に関しては、大きな変動はなく安定していたが事業所の人員縮小もあり相談員がほぼ介護の業務に入っていた中で新規利用者が増えていたことも要因。下半期に入り一定の稼働を保っていたが12月・1月・2月と入院者や入所が重なり大幅な稼働率低下がみられたが年間通じて目標の65%以上は維持が行えていた。業務改善としては主にデイフロア内の片付けから始まり、フロア内のマット交換、物の配置交換など、利用する方を中心にレイアウトを考え実施行い、年間通じて維持ができていた。またデイサービス会議などでは情報共有の徹底、利用満足度向上の為レクの充実化を図り、前年度よりケアの統一化や意識統一、職員間での対応方法の話し合いの機会を多く持つことができた。特にレクの充実化は畑や張り絵、脳トレプリントなど、レクの内容、取り組み方の改善を行った。少しずつ利用者様の意向を取り入れたレクを実施する回数も増え、利用者様からも好評を得ている。接遇という点では改善する点はあるが、年間通じて職員の意識が大幅に向上したと思われる。

居宅介護支援事業所恵光園

【部署目標】

- ①ご利用者様、ご家族様の気持ちに寄り添い、より良いサービスを提供できるよう努める。
- ②居宅全体の利用者契約件数月93件(要支援者含)を目標に、積極的に新規利用者を受け入れていく(R8年1月現在 月96件 要支援者含)その為千葉県あんしんケアセンターや病院、老人保健施設等との連携を図る。
- ③内部、外部の研修に積極的に参加し、知識・技術の向上に努める

【執行報告】

請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
山崎	20	20	19	20	21	21	26	26	25	22	24	23	267
葛岡	28	27	27	26	27	26	28	30	27	26	26	27	325
板倉	38	36	36	37	35	35	38	39	39	38	40	40	451
介護件数	86	83	82	83	83	82	92	95	91	86	90	90	1043
山崎	13	13	13	13	13	11	9	10	10	10	11	11	137
葛岡	7	7	7	7	8	8	9	8	8	8	8	8	93
板倉	10	9	9	9	9	9	11	11	11	12	12	12	124
予防合計	30	29	29	29	30	28	29	29	29	30	31	31	354
予防件数	10	9.6	9.6	9.6	10	9.3	9.6	9.6	9.6	10	10.3	10.3	118
介護予防合計	96	92.6	91.6	92.6	93	91.3	101.6	104.6	100.6	96	100.3	100.3	1161
稼働率(%)	72.7	70.1	69.3	70.1	70.4	69.1	76.9	79.2	76.2	72.7	76.7	76.7	73.2
認定調査委託	1	4	1	3	2	1	0	3	1	1	1	0	18

【総評】

年間の請求件数トータル数としては、要介護が昨年度 991 件、今年度 1043 件。52 件の増となっている。要支援は通減数換算で年合計 118 件で要介護、要支援の合計としては、1161 件で月平均96.7 件となり目標の93件を超えることが出来た。千葉市あんしんケアセンターや病院、他事業所からの依頼は増えているが、終了になった件数が今年度 33 件となっている。引き続き千葉市あんしんケアセンター等にごまめに訪問し繋がりをもち件数を増やせるようにしていきたい。特定事業所集中減算は、1年通して減算はなかった為書類を作成し保管している。研修については、ズームでの開催だけでなく参集での研修も開催されてきており、今後も積極的に参加できるようにしたい。

ケアハウス恵光園

【年間目標】

- ① ご入居様の生活の場として安心して過ごせる環境作りを目指し、ニーズに対し速やかに対応していく。
- ② ご家族様や地域との交流が出来ない為、近況報告(すずめ通信)をし、協力・理解を一層深める。
- ③ 引き続き、新型コロナウイルス感染防止をしつつ、安全な外出が出来るよう懇談会などで新たなルールを設けご入居者様への説明と同意を得て、ケアハウス全体のQOLの向上をしていく。
- ④ 職員の都合(人事異動や休暇)でクラブ活動や美化活動に不備が出ないように努める。(レクやクラブ活動の強化)

【執行報告】

・稼働率 100%(入居者 5 名、退居者 5 名)

・入院者 5 名(男性 2 名 女性 3 名)

サービス利用状況(令和 8 年 4 月 1 日現在)

介護度	デイ利用者		生活支援	通所リハ	身体介護
要支援 1	2 名	1 名			
要支援 2	2 名		1 名	1 名	
介護度 1	3 名	2 名	1 名	1 名	
介護度 2	4 名	3 名	3 名		
介護度 3	1 名	1 名			1 名
介護度 4					
自立	3 名				

【総評】

援助計画は変化や見直しの時期が来た際、職員ミーティングで話し合い対応した。関係機関と連携し、担当者会議(限られた中で)を行いサービスの向上に努めた。定期的に病院に付き添い入居者様が理解しにくい医師からの指示を聞き正しい情報を伝えた。又、日々の状況をデータと共に医師に伝え入居者様の健康維持に努め、特変があった際には、迅速にご家族様に伝え共有した。入居者様が新型コロナウイルスに感染しない様に配慮し、必要なことは随時声かけした結果新型コロナウイルスやインフルエンザ感染症発生無しだった。

日中・夜間を想定とした防災訓練を特養と連携し実施し、入居者様・職員緊急時の対応の経験を深めることができた。防災委員会に参加し、防災・減災の知識・技術を深めた。

手工芸クラブでの干支作り等企画し実施し、園芸クラブでの引き続き畑や園庭作りを行った。季節行事、クラブ活動等、外出の機会を増やしたことでQOLの向上に努めた。

環境面ではケアハウス大規模修繕も行われ共有部が綺麗になった反面、施設周囲の環境美化について定期的に実施することができなかったため、今後意識していきたい。定期的に広報紙を発行して、ご

家族様に送付し活動内容の報告を行ったが、広報誌として内容が伝わっているのか疑問が生じた。次年度では写真等添えた内容でより伝わりやすい広報誌を考えていく。

今後もご入居者様のQOL向上に努め、介護認定を受けていても生活し続けられるように日々の生活を充実させていける活動に取り組んでいきたい。

感染症委員会

【年間目標】

プロアクティブ行動によりお客様への感染症防止策を身につける

基本方針

- ① 感染の成立について理解し感染が成立しないための行動を考えてできるようにする。
- ② 重要な感染症について各々理解し、対策を講じることができるようになる。

【総評】

環境整備含め感染防止に努めるにあたって、定着できなかった内容もあり、定着には継続できるしくみを考える必要があるため、今後の課題として継続して取り組んでいく。

感染対策においては、居室隔離等迅速な行動ができた場面もあり、ガウンテクニックなど拡大防止策を講じて感染者を最小限にとどめることができたケースもあったため、より精度を高めていきたい。

身体拘束廃止・虐待防止委員会

【年間目標】

「接遇の向上と尊厳あるケアに努め、お客様主体を実現する」

- ① 認知症ケアの視点からの知識の向上、虐待防止委員が中心となりユニットへ持ち帰り職員のスキルアップを行う。
- ② ユニットで抱えている問題を委員会で取り上げ、委員会メンバーでアセスメントを行い、解決の糸口を作る。
- ③ 虐待防止として、職員のストレスケアを行える環境づくり、コミュニケーションが取れる職場づくりを行う。
- ④ 接遇意識の向上

【総評】

認知症ケアの知識の向上として「ひもときシート」でグループワークを中心に行い、認知症のお客様の視点に立ち考える事を行った。グループワークを行った中で、様々な対応方法や意見が聞かれたので来年度も継続し行っていく。

委員以外の職員への周知に関しては、どのように職員へ伝えていくのかが今後の課題になってくるため、来年度は周知の方法を宿題という形でユニット内に持ち帰り話し合いの場を設けていく。そのためには、コミュニケーションが取れる環境づくりも兼ねて行っていく。

虐待の芽・接遇アンケートを今年度は1回しかできなかった為、アンケート方法はGoogleホームを使い年2回行えるようにし、職員の接遇意識の向上と職員のストレスケアを行っていく。

事故防止委員会

【年間目標】

委員会で学んだことを現場に落とし込み区分1～3までの事故を200件以下にする。

【総評】

結果として事故件数は353件だった為、200件以下にはできなかったが、前年度は419件であった為、66件事故は減少した。ルール違反や介助中の事故が63件あった為、そのような事故を防いでいれば290件で抑えることができた。

年間を通し現象理解に基づき、事例をグループワークで行っていくことで、考え方の意識が職員目線

からお客様目線に変わっていった。事例のグループワークを繰り返すことで、考え方や意識づけが徐々にできてきた為、ルール違反や介助中の事故を減らしていけるよう繋げていきたい。

ICTの活用が進まなかったなので、今後進めていきたい。

行事委員会

【年間目標】

①お客様に非日常を楽しんでもらうように、職員は常に考えて立案する。

非日常を楽しんでもらうのは当たり前だが、常にお客様に飽きさせないように、楽しいレクを考えて、提案する。職員もレクに対する意識向上にも努める。

②レクに対して苦手な職員もいるが一緒に楽しむという姿勢を持つ。

苦手な職員には、得意な職員に相談し質の良いレクの作り方を、レクチャーしてもらう。その事により、お客様にも楽しむという事が伝わりよりよいレク、非日常に繋がる。

③全てはお客様優先で考える。

レクをする楽しさを知って、季節感、達成感を実感してもらい、それにより、生活の質の向上、身体機能の維持、生きる楽しさ、ADLの向上にも繋がる。

【総評】

お客様に楽しんでいただけるレクリエーションを目指して各部署や委員が企画を進め、職員自身も楽しみながら取り組んだことで、全体としてレクの雰囲気が明るくなり、より良い時間を提供できた。特に恵光園30周年の恵光園祭では、職員が協力し合い、準備の段階から和やかな気持ちで取り組めたことで、その空気感がお客様にも自然と伝わり、たくさんの笑顔を見ることができた。

しかし、部署ごとのレク実施回数には偏りが生じ、レクが得意な職員と苦手な職員の差があった。苦手な職員が気軽に相談できる環境が十分ではなく、レクの進め方や工夫が共有されにくかった点は今後の改善点として残った。

これからは、職員同士が声をかけ合い、相談しやすい雰囲気をつくりながら、誰もがレクと一緒に楽しめる体制を整えていくことで、お客様にもっと多くの楽しい時間を過ごしていただけるようにしていきたい。

防災委員会

【年間目標】

① 災害時に正しく的確に動けるよう、常に防災意識を持ち続ける。

地震・火災・水害等の各種災害についての知識を深め、自身(職員)も含み、お客様の生命・生活の安全を確保する。

自然災害以外の人的災害を引き起こさないにはどうするか？「災害を起こさない」ための知識を身に付ける。

② BCPの知識を身に付ける

「BCP」とは何か？介護事業所でなぜ義務付けられているのか？知識を深めていく。BCPを学ぶ中で、社会のながれも確認していく。BCPについて実際に必要な物品を確認する。

③ 他職員に説明できる様、委員会内容を委員が把握し、各フロアへ発信する

他職員へ発信するためには、まず内容を委員が理解する必要がある。自身が分かるように内容を振り返り、情報を自身に取り込む力を養う。

【総評】

3か月に1度の開催であったため、内容を凝縮して進行する必要があった。会議についてはメンバーの知識を深めることより事務連絡の方が割合として多くなってしまった。BCPについてはBCPがなぜ必要なのかを中心に委員会メンバーと共有していった。今年は停電を想定として訓練を行った。点検による停電や断水の時に委員会メンバーが自主的に行動できるようになりつつある。避難訓練については、3月上旬に最終訓練を実施した。準備不足で形式的になってしまい次年度以降の反省点としていく。

栄養・褥瘡予防委員会

【年間目標】

ブレデンスケール 15 点以上のお客様を 7 割以上にする。

- ① 基本方針ブレデンスケール 13 点以上のお客様を 7 割以上にする。
- ② 褥瘡発生から処置等をデータ化し、すぐに把握できるようにする。
- ③ 排泄委員会と連携し適切な排泄介助、適切なポジショニングを提供する事ができる職員を増やす。
- ④ 高リスク者平均 17 名(ALBは 7 名)の所を年間で 1 名でも多く減らしていく。
- ⑤ 日々の食事環境の雰囲気作り。
 - ・職員の食に関する知識・意識を高める議題を集め、委員全員が発言できる委員会にしていく。
 - ・最新の栄養に関する情報の共有を行う。
 - ・話しやすいように、委員会の雰囲気作りを行い、誰もが発言できるようにしていく。

【総評】

令和 8 年 3 月時点でブレデンスケール 15 点以上のお客様の人数は 109 人中 78 人(71.8%)となった。今年度褥瘡は、ブレデンスケールの採点方法の振り返り・3カ月毎のブレデンスケールの前回比・記入方法の各職員の考え方の統一を目的としたグループディスカッションや個人ワークを行った。各メンバーから各項目の対策についてのアプローチ方法の提案や1人で考えずユニットに持ち帰りアプローチ方法の提案を行っているユニットもあり、現場に繋げる部署もあったが大半はブレデンスケールを知るといって終わってしまった。

栄養に関しては各委員会メンバーが積極的に取り組み、瞬発力・発想力の強化につながった。一方で、お題に囚われてしまう委員もいたため、来年度は自然な形で雰囲気作りを考えて広める事が出来るようにしていきたい。

排泄委員会

【年間目標】

- ① 原点回帰(お客様目線)
- ② 高齢者の排泄機能、技術の向上を目指す
- ③ 職員本位ではなくご利用者様の快適(安楽)、清潔保持に重点を置いた考え方をユニット全体に浸透させる。ICT 活用し個別ケアを図っていく。

【総評】

排泄のルールやマナー等の基本的な事から排泄機能を学び、なぜケアとして行っているのか根拠を説明した上で実技を行う事が出来た。排泄用品について説明する事で、根拠を持ってご利用者様の安楽、清潔保持について実技(排泄用品の装用や陰部洗浄)で技術の向上を図れた。それにより排泄用品の見直しや各ユニットでアセスメント、カンファレンスを行う等ユニットへ浸透させる動きも見られた。眠りコ

ネット等 ICT 活用における個別ケアに取り組む事が出来なかったため、次年度に生かしていきたい。

労働衛生委員会

【年間目標】

- ①労働衛生委員会の本来の目的である、労働者の安全と健康を守るために必要な対策を話し合う。
- ②5S 活動の推進。

【総評】

労働者の安全と健康を守ることを目的に、労働基準法の知識共有や活発な話し合いによる課題解決、5S 活動の推進、職場の風通し改善に取り組んできた。委員会では情報共有や意見交換を行い、現場の状況把握と改善に努めたが、労働衛生に関する教育の時間を十分に確保できず、知識向上が不十分であった。また、5S 活動の必要性も十分に浸透させることができなかった。今後は、計画的な教育機会の設定と、5S を日常業務に定着させる仕組みづくりを進め、より現場に役立つ委員会を目指した